

生きる

導
師
現げん
楠なん

昨年、恩師日正にっしょうげいか下は信行しんぎょうしん指針、
「生きる ただ生きる それで良よし」
を、お示しになりました。

——私たちは、生きてゆくために様々なものを必要とします。
太陽の光。空気。水。熱。電気。ガス。石油……。
その他、実に様々なものを必要とします。

たとえば、魚、動物、野菜……。
たくさんの生物、動物、植物を、犠牲ぎせいにして食べ物を得、そしてこの命を
支えているのです。

手で物を持つことができる。食事ができる。人と会話もできる。本も読める。どうやらこうやらであるが、歩くこともできる。何よりも息ができる。考えてみれば、こうしたことは、当たり前でもなんでもない。

本当は、すごいことなんです！

さらに、私たち人間は物として存在するだけではありません。精神的な存在でもあるので、心に栄養も必要です。

自然の美しさに触れることも大切です。

色とりどりの草花に安らぎをおぼえ、鳥や虫の声に心を和ませる。

木々から伝わる風に吹かれ、涼しさを感じる。

家族愛、友情も必要です。

社会の中で生きているので、人と人との触れ合いも大切です。

人生の目的も必要です。

仕事などを通じた生きがいも大切。

文化、芸術、学問なども必要。

そして、何よりも「魂の食べ物」が必要です。

この「魂の食べ物」こそが、宗教なのではないでしょうか。

こうしたことを考えると、生きているだけでもすごいことなのです。こうして生きている。これだけでも良い。

大したことが、できなくても良い。毎日の生活のなかで、ただ生きるだけ。夢や希望も大事。でも、それは二の次、三の次。

ただ生きているだけで、すでに、すごいことをしているのだ。何事も、一喜一憂いっきいちゆうしないこと。

名も知れぬ花でも良い。きつと、誰かが見てくれるに違いない。たった一人でも、見てくれる人がいたら、それでもう十分。

そんな人間になりたい。

置かれた場所で、堂々と生きようではないか。

生きることに、まず専念せんねんすること。

きつと、そこに生きる意味を見出すことができるはず。

まずは今日一日を生ききることに、全力を尽くそうではないか。——と、お説きになりました。

生きる

この信行指針が、どれほど多くのご信者さまの心に響き、励ましとなったか、はかり知れません。

勇気を与え、生きる源となったことでありましょう。



当会の部長として永年ご奉公いただき、現在は、当会総代である男性のご信者さまのお話です。

以前は、大行事や総講を欠かさずお参りされていきました。

毎月の平御講のお供もなさっていました。

たくさんのお教化もされました。

しかし最近は、年を取るにつれ、段々と体力が衰え始め、床に臥すことが多くなってしまいました。

昨年、平御講でご自宅に伺いました。お参りを済ませ、お見舞いのため、寢室に入ったところ、いつもニコニコとされているご信者さまの笑顔が消え、悲しいお顔をなさっていました。

どうしたことかと思ひ、伺うと、ゆっくりと話し始められました。

「我が家のお参りにおいでいただき、ありがとうございます。

本来ならば私もお戒壇かいだんの前で正座をしてお参りしなければならぬのに、布団に横になったまま手を合わせておりました。ご不敬ふけいをお許しください。

こんな身体からだになってしまいました。

今までできていたことが、ほとんどできなくなってしまいました。

家族や、周りの人たちのお世話になる毎日です。

このことには、大変感謝をしております。

しかし、楽しみにしていたご本部などでのお参りができなくなってしまい、つらく、悔しいくや思いをしている次第です」

と、目に涙をためて、おっしゃるのです。

そこで、昨年のご指針、

「生きる ただ生きる それでよし」

をお伝えし、日正猊下のこの信行指針に込められたお心、すなわち冒頭の解説文をお伝えしました。

すると、

生きる

「エエッ！ 『ただ生きる』 だけでいいんですか！

お話を伺い、今までのつらく、苦しい気持ちが一掃と消えました。生きる勇気が湧いてきました。ありがとうございます！ ありがとうございます。

くれぐれも恩師猥下によりしくお伝えくださいませ」

と、表情が以前のように明るい笑顔に変わり、気分を高揚させながらおっしゃいました。

このご信者さまのお姿を拝見し、私自身も生きる勇気が湧きました。ご信仰の有り難さを実感いたしました。

今年、私は、

「ただ生きる 生きる源 一向口唱」

という信仰指針をお出ししました。

——生きとし生けるものは皆、唯一無二の存在である。

ただ生きていくだけで価値や意味がある。

生きるだけで、それぞれ立派なことを成し遂げているのである。

単純に「ただ生きる」と言うと、

「自由奔放・自己中心・社会のルールに制約されず、勝手気ままに生きる」

と捉えてしまう恐れがあります。

しかし、そうではありません。

獅子吼会の大事な教えである「難有って有り難い、と喜びに思いを変えろ」。

「化他即自行」。「反省・感謝・努力」。

など、正しい教えが根本にあり、その上に「ただ生きる」があるのです。

すなわち、こうした気づきが得られるのは、お題目を口唱する正しいご信仰があればこそです。

「生きる」という言葉には、その他にも、いろいろな意味があります。

知識、経験などを生かす。本来の力を発揮する。自らの生を誠実に歩むことが他者への貢献につながる、などの意味もあります。

これまでの知識や経験を生かし、自分らしく、自分のペースで、一瞬一瞬を精一杯「生きる」を実践して参りましょう。――

お互いさまに、全力で一日一日を生ききろうではありませんか。

ありがとうございます。